しまねの社会教育だより

vol.16
島根県立東部社会教育研修センター

特集 これからの「ふるさと教育」

photo 奥出雲町の特色を活かした「たたら体験学習」

2014.
3月号

これからの「ふるさと教育」

平成17年度から県内全ての小中学校、全学年で取り組まれてきた「ふるさと教育」は、第3期（平成23 ～ 25年度）の節目を迎えています（第3期「ふるさと教育」については、vol.13に掲載）。第3期を振り返り、これからの「ふるさと教育」のあり方について考えてみます。

これまでの成果と課題

これまでの成果

児童生徒

地域の「ひと・もの・こと」に興味をもつ児童生徒が増えて、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになり、ふるさとを愛する心が育ってきています。

『「今、住んでいる地域の行事に参加していますか。」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合』

	小学校		中学校	
	県	全 国	県	全 国
H25	73.1	63.9	47.8	41.6
H22	70.4	61.6	35.7	34.3

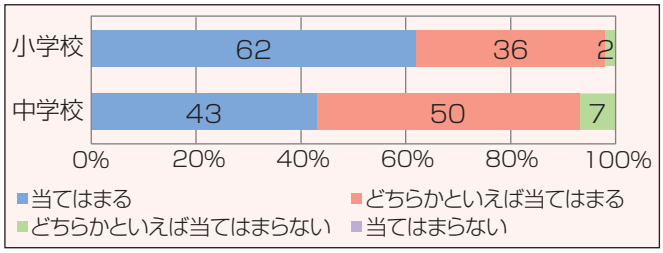
※全国学力調査・児童生徒質問紙調査結果より
（単位：%）

学 校

地域の教育資源「ひと・もの・こと」を活用しようとする意識が浸透し、特色ある教育活動が展開されています。また、地域講師やボランティア等と関わることで、教職員の地域への関心が高まってきています。

『「教職員が自ら地域のひと・もの・ことに積極的に関わっているか」という問いに対しての学校の回答』

※ふるさと教育推進事業アンケート（H24）より

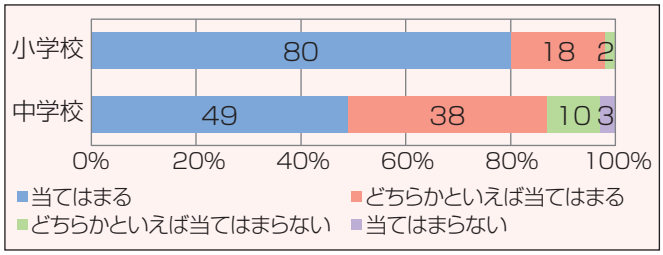


地 域

公民館等を中心とした学校支援体制が整い、多くの地域の方が「ふるさと教育」に関わってくださっています。放課後支援、家庭教育支援等の取組とともに、地域で子どもを育てようとする気運が高まってきています。

『「保護者、地域の人など様々な人が、学校支援ボランティア等として関わっているか」という問いに対しての学校の回答』

※ふるさと教育推進事業アンケート（H24）より



みえてきた課題

○同じ中学校区で、小中学校の学習内容に重なりがある校区が見られます。
○体験活動のみで学習が完結してしまい、学習が深まっていかない取組があります。これは、教職員等に「ふるさと教育」の趣旨、理念がまだ十分に理解されていないことが考えられます。
○地域の窓口である公民館等との関係づくりや調整役であるコーディネーター配置などの学校を支援する体制が地域ごとに違います。この体制や仕組みによって、教職員の負担感に差があります。

「ふるさと教育」は、地域の人とのふれあいや地域での様々な体験等を通して、学ぶ喜びや充実感を味わい、ふるさとへの愛着と誇りを養うとともに、心豊かな人間性・社会性を育もうとするものです。さらに、自分たちの地域にある課題に正対することで、地域の一員として地域に貢献したり、地域を大切にしたりする心を培っていきます。

これからの「ふるさと教育」の取組

小中9年間を通した系統性のある「ふるさと教育」の展開

教職員が各学校の取組や地域の教育資源について、情報を共有する機会をもち、小中9年間を通した計画が必要です。

○中学校区ふるさと教育推進連絡会議の開催

新たに会議を設置することも考えられますが、すでにある小中一貫（連携）等の会議を活用したり、ふるさと教育研修等の機会を使って、中学校区ごとにグループ協議を行ったりすることも考えらえます。

中学校区ふるさと教育推進連絡会議とは?

何をするの?

「ふるさと教育全体計画・一覧表」の作成

中学校区ふるさと教育推進連絡会議を開催し、小中9年間を通した系統性のある「ふるさと教育」の計画を作成します。

○学習内容・取組の情報交換
○学習内容・取組のすり合わせ、見直し
○地域の教育資源の情報共有
○合同・一貫して取り組むテーマ・題材等の検討
○発展、補完、深化させる生涯学習、社会教育事業の検討 等

メンバーは?

○小・中学校の管理職、担当教員
○学校支援コーディネーター 等
※必要に応じて
○公民館等の職員、ボランティア

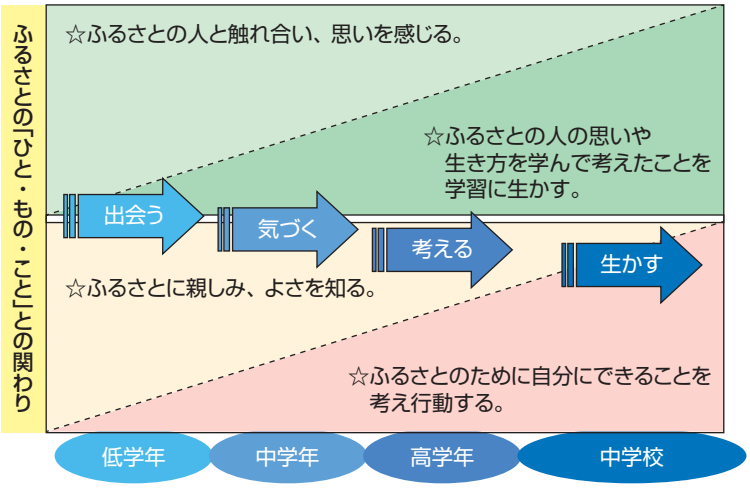
学習の深まりを意識した発展性のある「ふるさと教育」の展開

「ふるさと教育」は、各学年、各学習活動・取組の一つ一つが関連して、つながり、繰り返し学習することで、児童生徒に地域への愛着や誇り、豊かな人間性、社会性を育み、地域の一員としての自覚を促すことができます。

そのためには、学習の終わりに、次の学習への意欲へとつながる新たな気づきや課題が見つかるような学習の過程を工夫することが必要です。

右図は、「ふるさと教育」の「学びの発展性・系統性」を表したものです。このように発達段階に応じて、地域の教育資源と児童生徒にどう関わらせていくかを考えることも大切です。

☆学びの発展性・系統性☆



学校を支援する地域の体制のより一層の充実

学校の地域との連携体制や仕組みづくりは、公民館等が中心となって整えられています。今後、新たに中学校区ごとの支援体制づくりや学校での取組を地域の活動へと発展させていく必要があります。

○中学校区の学校支援体制のネットワーク化

各校の学校支援を担当している公民館等の職員や学校支援コーディネーター等が中学校区ごとに集まり、学校支援のあり方や体制について検討し、活動の充実を図ります。

○学校のふるさと教育を発展、補完、深化させる事業の実施

学校の「ふるさと教育」の取組と地域の事業との関連性をもたせたり、連動させたりすることで、発展性のある取組になります。学んだことを実践できる場（作品展示や発表会、ボランティア体験等）、学びを深める場（ふるさと学習会、ふるさと探訪等）が考えられます。さらには、地域として、子どもたちに伝えたいことや考えさせたい課題を提案することも考えられます。

これからの「ふるさと教育」は、学校と家庭・地域が一体となって児童生徒の「生きる力」を養い、心豊かでたくましい、明日の島根を担う子どもの育成を図っていきます。

広がる『親学プログラム』の活用事例

今年度から『親学プログラム』の活用が、各市町村において、地域の実情に応じて展開されています。
その“親学”の活用事例として、住民のつながりづくりに取り組む「八雲青少年育成の会」と、『親学プログラム』普及に力を入れている「大田市の取組」の二つを紹介します。

伝えたいって想う気持ちが 伝わった

八雲青少年育成の会

平成25年11月30日(土)に松江市立八雲中学校で中学生・教職員・PTA・地域住民あわせて約200人が参加して「青少年育成八雲住民大会」が開催されました。

この住民大会は“子どもの教育は、地域の大人の役割”という思いから14年前にはじまりました。「地域にとって未来の担い手である子ども達に、地域の大人を知り、地域に関わって連携して活動する喜びを味わってほしい。」「子どものいない世帯の大人たちに、子どもたちと関わってほしい。」と願い、住民一人一人が地域に縦や横だけではなく「ナナメ」につながっていくという異世代交流に取り組んでいます。地域の異世代同士が言葉を交わし、思いを伝え合い、わかり合うツールとして『親学プログラム』が用いられています。

今年は、約200人が13グループに分かれてプログラム2−②「子どもに伝えるのって難しい!」を体験しました。体験後の会場ではたくさんの晴れやかな感想が聴かれました。

なかでも印象的だったのは、中3男子とペアになった保護者の女性がつぶやいた一言でした。「あなたの伝えたいという想いが伝わったわ。」女性は笑顔。そして、その横で「僕も伝えたいと強く想いました。」と少し照れたような笑顔を見せた中3男子。想いがつながった瞬間でした。　（東部社会教育研修センター取材）

広がっています! 子育ての「輪」

大田市の取組

大田市では、今年度から親学ファシリテーターの養成と派遣を教育委員会生涯学習課が窓口となり進めています。ファシリテーターは、総勢13名です。本年度は12月までに『親学プログラム』を活用した講座を19回実施しました。

今年度は、『親学』普及のために3つのことを重点的に取り組んでいます。

1つ目は、「継続した広報活動」。市の社会教育情報誌「あそびたいがぁ〜」の特集誌面で『親学』を紹介しました。市内全保幼園児・小中児童生徒の他、市内の公共施設に6200部を配布しました。その他にも市のホームページで紹介しています。

2つ目は、「連携した取組」。市民生活部健康保険年金課と連携した「妊娠期パパママ教室」、大田市適応指導教室(不登校のお子さんに学習活動や体験活動を通して心の居場所づくり、仲間づくりを支援する教室)と連携した親学講座、その他にも「地域みんなで子どもを育てよう!」という趣旨のもと、関係団体と連携し、「青少年健全育成大会」でも『親学プログラム』を実施しました。

そして3つ目は、「チームワーク」。「大田市親学ファシリテーター連絡会」を開催し、体制や今後の活動について意見交換しました。親学ファシリテーター同士がつながり、大田市の家庭教育支援に関するシステムを確認することができました。この会で出された意見から、市内小中学校教頭会で説明したり、ケーブルテレビの情報番組に親学ファシリテーターが出演し、『親学』の紹介をしたりしました。

「『親学プログラム』があらゆるところで活用され、人と人が優しさでつながり、子育ての輪がさらに広がりますように」と願いながら、大田市の取組は進んでいます。　（西部社会教育研修センター取材）

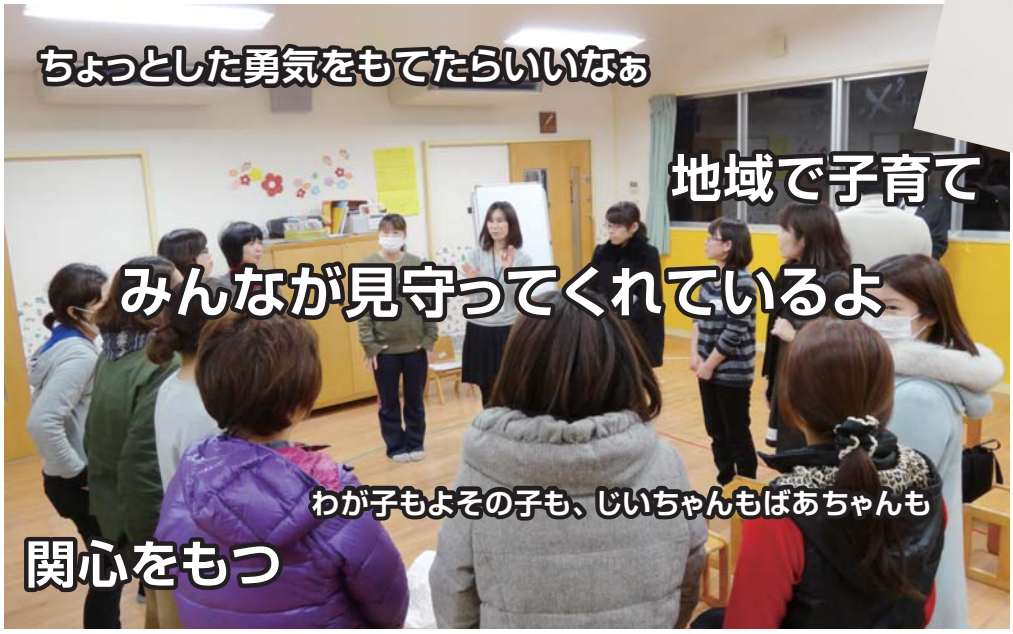
いじめや児童虐待予防に対応した『親学プログラム』を作成しています

現代は、核家族化、少子化等による地域のつながりの希薄化など、家庭教育を支える環境が大きく変化するとともに、家庭教育をめぐる問題がますます複雑化しています。

このような背景の中、特に喫緊の課題である「いじめや児童虐待」の未然防止を図るため、関係部局・機関と連携し、新しい『親学プログラム』の開発に取り組んでいます。

いじめや児童虐待予防に対応した親学プログラム

新プログラムの“モデル実施”の様子



「いじめや児童虐待予防に対応した親学プログラム」の試行版を平成26年度に作成し、併せて新プログラムに対応した「親学ファシリテーターの養成」を平成26年10月以降から始めます。

是非ご活用・ご参加ください。

わがまちの

社会教育の実践紹介

安来市

笑顔の子育て応援します

安来の子どもたちや、子育て中の人達が「キラ☆キラ輝く笑顔で毎日をすごせるように」

キラ☆キッズ　代表　山根　久美子

子育て講演会の開催

子育てに対する考え方、子どもや家族への接し方などのテーマについて「まずは親が学んでいこう!」ということで講演会を開催しています。

親学プログラムの実施

メンバーの多くが安来市親学ファシリテーターとして小学校や幼稚園、また事業所等に出向いて親学プログラムを進行しています。参加者の皆さんと「出会い」「話しあい」「気づきあう」をモットーに楽しく充実した時間を過ごしています。

講演会のあとで…スタッフ一同

キラ☆カフェの様子

キラ☆カフェの開催

毎月第一木曜日に社日交流センターで開催しています。仕事や子育てに頑張っている親同士がほっと一息つけるような場所となるようにこころがけています。

様々な活動の中で見られる参加者の皆さんの笑顔に支えられながら、楽しく充実した時間を過ごしています。

浜田市

「熱い想いをもち、動きをつくる　浜田市社会教育委員の会」

浜田市教育委員会　生涯学習課　河本　誠二

浜田市社会教育委員の会は今年度、市の教育長へ「浜田市の公民館のあり方、めざす姿」についての最終提言を提出されました。提言書の作成にあたっては年間6回の全体会議開催、そのための11回にわたる準備会、さらに勉強会や公民館巡りを自主的に行われるなど非常に精力的に活動されました。ときには月に1～2度の頻度で協議の場をもたれました。何といっても委員のみなさんの“熱い想い”がなければできなかったことです。浜田市の社会教育の推進のために自らが動き、さらなる動きを生み出すというサイクルをうまくつくり出されていると感じています。

自主勉強会

提言書の提出

また先日、浜田市の教育委員のみなさんとの昼食会・意見交換会が開催されました。昼食会では、社会教育委員のみなさんが持ち寄ったお米、大豆などの食材を使ったカレーライスや手づくりのパンを食べながら意見を交わされました。子どもを育むには地域の力を活かし、学校教育と社会教育がともに連携することが確認されました。

今後においても社会教育振興のために必要な意見を社会教育行政に届けていただき、ともに元気な浜田市を創っていくためにがんばっていきたいと思います。

お知らせ 平成26年度の社会教育関係の研究大会等について

第37回 中国・四国地区公民館研究集会　ー島根大会ー

大会テーマ

「人が輝き、地域が輝くコミュニティづくりー公民館の果たす役割を考えるー」

開催日時　平成26年9月4日(木)・5日(金)

1日目 4日 開会行事・記念講演　会 場　島根県民会館大ホール

2日目 5日 分科会　会 場　松江市内(4テーマ8分科会)

第56回 全国社会教育研究大会徳島大会
第37回 中国・四国地区社会教育研究大会

大会スローガン

「夢・絆 阿波からつむぐ新たな社会教育!」

開催日時

平成26年10月23日(木)・24日(金)

1日目　23日
開会行事・講演会・シンポジウム

2日目　24日
分科会(5分科会)

会 場

アスティーとくしま
(徳島市山城町東浜傍示)

第36回 全国公民館研究集会 in 埼玉

大会スローガン

「公民館よ　あつくなれ!」
ー時代の変化に対応し、
地域との連携を深める公民館をめざしてー

開催日時

平成26年10月16日(木)・17日(金)

1日目　16日
開会行事・文部科学省施策説明・記念講演

会 場

熊谷会館(埼玉県熊谷市)

2日目　17日
分科会(5分科会)

会 場

熊谷市・行田市(各会場)

編集スタッフから

この冬の初めに仕事で隠岐諸島の西ノ島を訪れました。

西ノ島の国賀海岸に広がる風景に圧倒され、かなりガツンと衝撃を受けたのを今でもリアルに想い出します。眼前に広がる風景をみて“西ノ島すてき!”“こんなすてきな島のある島根すごい!”“「隠岐世界ジオパーク」すごい!”まさに**“ふるさとしまね万歳!!”**の気分でした。それと同時に、家族が今ここにいて一緒に感動できなかったことが残念でたまらなくなりました。

西ノ島だけでなく、島根県内には目を見張るうっとりする景色があちこちに存在します。そんな景色に出会うたび、『しまね』で暮らしていることをじんわりと実感します。

「ふるさと」を想うとき、それは景色だけではなく、人の姿だったり、声だったり・・温もりであるかもしれません。音、人の笑い声、香り、体に感じる風、そして人とのかかわり、その時の感情までもが「ふるさと」のカタチなのかもしれません。たくさんの体験・かかわりの積み重ねによって、私たちのこころに「ふるさとしまね」がしみていくのではないでしょうか。

東部社会教育研修センター
〒691-0074　出雲市小境町1991-2 サン･レイク2F
Tel.(0853)67-9060　Fax.(0853)69-1380
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター
〒697-0016　浜田市野原町1826-1 いわみ～る3F
Tel.(0855)24-9344　Fax.(0855)24-9345
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第17号は8月上旬発行予定

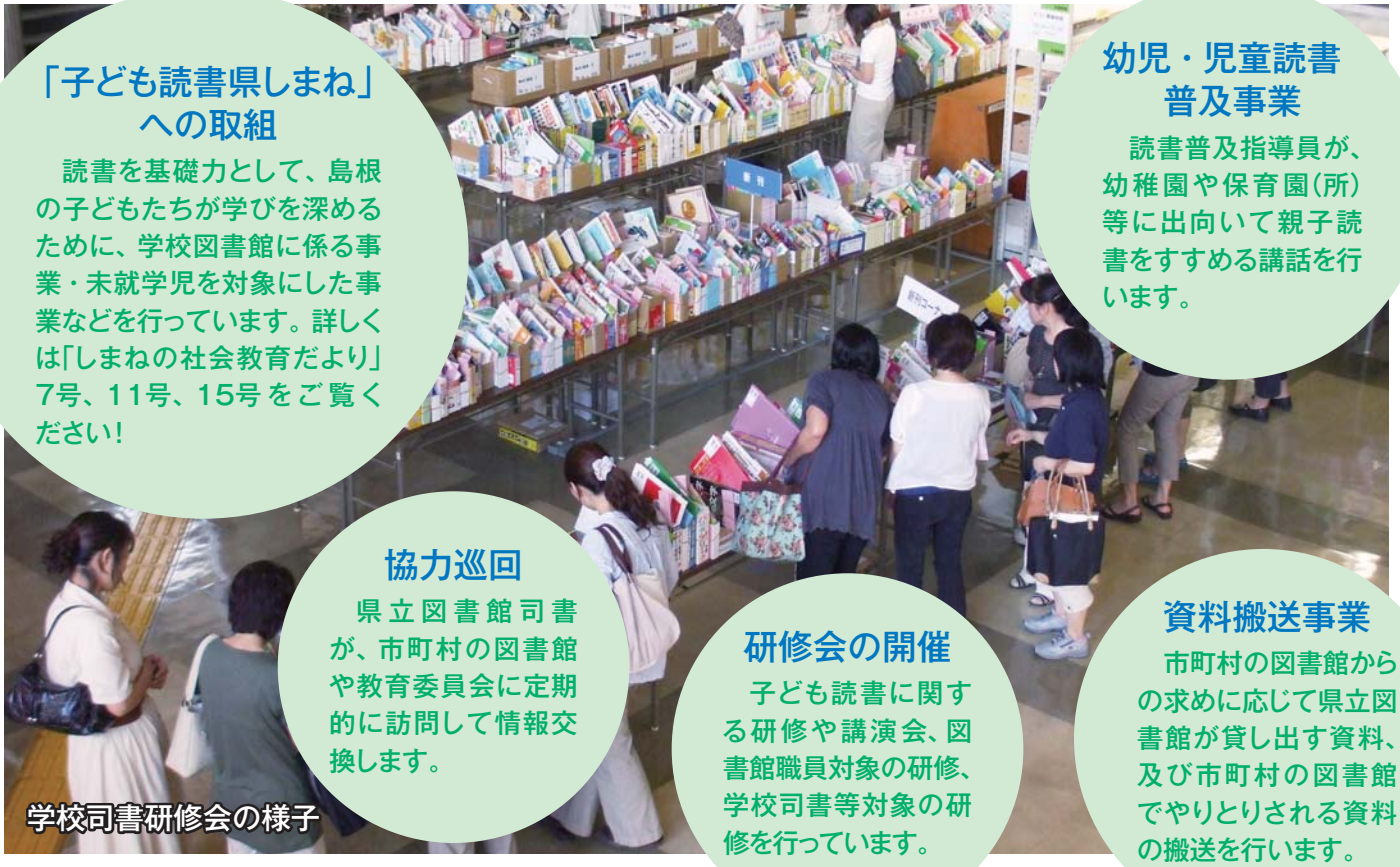
この印刷物は古紙パルプ配分率70%以上の用紙を使用しています。

島根県立図書館

〒690-0873 松江市内中原町52
TEL.0852-22-5725 FAX.0852-22-5728
新URL：http://www.lib-shimane.jp/

県立図書館は、来館者サービスだけではなく、市町村や学校の図書館・公民館・保育所・幼稚園・子育て支援センターなど様々な機関・団体とつながりあって、読書へのいざないや地域課題解決にご利用いただいています。

社会教育に携わる皆さん！
まずはお近くの図書館を使ってみませんか？
県立図書館は、市町村の図書館や教育委員会などとつながっています



学校司書研修会の様子

「子ども読書県しまね」への取組

読書を基礎力として、島根の子どもたちが学びを深めるために、学校図書館に係る事業・未就学児を対象にした事業などを行っています。詳しくは「しまねの社会教育だより」7号、11号、15号をご覧ください！

幼児・児童読書普及事業

読書普及指導員が、幼稚園や保育園(所)等に出向いて親子読書をすすめる講話を行います。

協力巡回

県立図書館司書が、市町村の図書館や教育委員会に定期的に訪問して情報交換します。

研修会の開催

子ども読書に関する研修や講演会、図書館職員対象の研修、学校司書等対象の研修を行っています。

資料搬送事業

市町村の図書館からの求めに応じて県立図書館が貸し出す資料、及び市町村の図書館でやりとりされる資料の搬送を行います。

浜田市立中央図書館まつり

読みメン啓発イベント
「読みメンパーク in しまね」

そして、確かな情報と積み重ねた知識を用いて、皆さんのお役に立ちます

親子読書アドバイザーの派遣

乳幼児に関わる大人(保護者や保育関係者)を対象に「親子読書」の大切さについて絵本を紹介しながらお話します。

レファレンス・サービス

調べもの・探しもののお手伝いをします。直接来館のほか、電話やメール、郵便でもお受けします。

暮らしに役立つ図書館講座

法テラス常勤弁護士を講師にお迎えして身近な話題から法律を学ぶ月一回の講座を開催しています。

資料展示・広報・講演会

時機を捉えたテーマで資料展示や広報を行っています。県庁各課や行政書士会等とタイアップした相談会や講演会等を行い、仕事や暮らしに生かせるヒントを提供しています。